

岡山プライマリ・ケア学会会報

第十七号 平成二十八年九月

第二十三回岡山プライマリ・ケア学会

生命と生活を結ぶ地域社会の創造に向けて

—保健・医療と福祉・介護をつなぐ連携のあり方—

平成二十八年三月二十一日（月・祝）

岡山衛生会館 中ホール 第一・二会議室

研究発表トピックス①

「晴れやかネット拡張機能ケアキャビネット

『やまぼうし』による医療介護の連携」

高梁医師会 仲田 永造

高梁医師会は高梁市と市内の多職種に呼び掛け、在宅医療連携に取り組むべく、平成二十四年三月から在宅医療連携システム検討会を立ち上げた。そして平成二十五年度から二十七年年度の三年間、高梁市は高梁医師会と協力して岡山県在宅医療連携拠点事業に取り組んだ。課題に取り組むため連携支援システム検討部会と普及啓発事業検討部会を設置した。連携支援システム検討部会では、切れ目のない医療介護の連携、二十四時間体制の構築の

ためにICTを使うシステムの検討と入院支援ルールの作成、高梁版情報共有書の活用をすすめられた。ICTの連携は晴れやかネット拡張機能ケアキャビネットを使うことに決定し、『やまぼうし』と愛称をつけた。

平成二十六年十二月高梁市役所保険課を事務局とし、市内の医療介護十七施設三十一人で仮運用を開始した。仮運用では、同意書は医師がとり、最初のICT利用の権限付与は事務局からこの医師に出される。そしてこの医師から患者さんの医療介護に直接携わる多職種（訪問看護師・薬剤師・ケアマネジャー・ヘルパーなど）に権限付与がされて、在宅ケアチームを形成し、情報共有が始まる。

仮運用が有用と評価され、平成二十七年十一月から参加者が拡大し、四十九施設百三十三人で第二次仮運用がスタートした。

ケアキャビネットの情報閲覧画面には医師、看護師、ケアマネジャー、薬剤師の記載欄がある。基本入力にはSOAPの形式（図1）でなされ、訪問やデイサービス利用などの予定表（図2）も作成できる。また高梁版情報共有書はEXCELで作成する。これらの情報は二度手間を減らすため、アップする前に印刷できるようにしている。

有用であった例は、がんの緩和ケア、要介護四、五の高齢者ケア、糖尿病のケアであった。また褥瘡や浮腫の写真、歩き方・食べ

図2



図1



方・話し方などの動画が簡単にアップできる。言葉で表現が難しいことを、視覚的にすぐ理解でき、有用であった。これからは、全市で使えるように進めて行きたい。

高梁市は倉敷市の約一・五倍の面積に倉敷市の人口の約六％の人々が、山と川とに隔てられて暮らしている。こういった中山間とでのICTによる情報共有は、時間と距離の差を感じさせず、人と人との心の絆を維持しながら、医療介護の連携ができるのではないかと感じている。

研究発表トピックス②

「家族以外に支えられた看取り

～望む場所で最期まで生きる～」

岡山訪問看護ステーション看護協会

佐山 純子

在宅における看取りの重要性が今後さらに増すことが予測されるなか、家族介護力が低い世帯や身寄りがない世帯の生活支援の問題などが挙げられています。

今回、子宮頸がんの末期の外国人修行僧が、修行僧仲間に支えられ自分の希望していた場所での最期を迎えることができた事例を経験しました。この中で家族以外の支援者でも、ケ

アチーム（かかりつけ医、緩和ケア医、緩和ケア病棟スタッフ、訪問看護師、ケアマネジャー、福祉用具事業者など）と連携することで、地域の中で看取りができるのではないかと考えました。

今回の事例ではケアチームや仲間が関わり始めた時に、仲間と面談の機会をもち情報共有したことにより意思の統一が図れ、安全に自立した生活が送れる環境を整えたことで本人の希望した場所での生活へと繋がりました。



日頃から、かかりつけ医や緩和ケア医と連携を図っていたことで、支援の調整が必要となった時には在宅療養から緩和ケア病棟へのスムーズな移行ができました。入院中に再評価し、今後の見通しが立ったことで、本人は周囲に対して感謝するようになり、仲間との関係性が再構築でき、その後の在宅療養につながりました。

終末期から看取りまでは、療養のお世話や状態が変化することを仲間に伝え、必要に応じて二十四時間相談を受けたことが安心した生活につながりました。お世話の中心となるリーダーが、本人と仲間それぞれの思いを知り、適性を見極めて役割を決めていました。お世話を続けることができた要因として、リーダーの存在とお世話をしたいという仲間が大勢いたことが挙げられます。

家族以外の支援者が住み慣れた地域で看取りをするためには、お互いを知る努力をし早期に関係性を築くこと。後方支援病院との連携。相談しやすい関係と共に、支援者が安心してそばに居られる環境。同じ思いをもった支援者とリーダーとしての調整役が必要だと考えます。今回の学びを多職種で共有し、家族以外の支援者でも地域で看取りができる仕組みづくりをすすめていきたいと思います。

◆関連団体の紹介

介護福祉士の役割とは

一般社団法人 岡山県介護福祉士会

一般社団法人岡山県介護福祉士会は、国家資格「介護福祉士」の職能団体として平成四年設立いたしました。現在、会員は介護保険・在宅サービス（訪問介護・デイサービス・デイケア）・病院・心身障害関係施設の介護職として、また、介護支援専門員、福祉関係教育機関の教員等多様な職場で働いております。その役割も「心身の状況に応じた介護」から、「人の生き方や生活にかかわること」で『暮らし』を支え、その人らしく生きること

を本人と共に実践する」と変化しました。さらに、福祉職として利用者の「人権」を守る事も大きな役割で、日本介護福祉士会の倫理綱領では第一に人権擁護を挙げています。

このように求められている役割は社会状況の変化とともにどんどん変わっております。昨年、新しい資格制度として「認定介護福祉士認定・認定機構」が日本介護福祉士会を中心に設立され、上級資格としての「認定介護福祉士」がいよいよ養成する準備が整い、以

下の役割があると定義されています。

(1) 介護職チームのサービスの質を向上させる役割

(2) 地域包括ケアを推進する為他職種との連携・共同を図る役割

(3) 地域の介護力の向上を図る役割

養成研修は1類・2類と分かれ、講義・演習を含め六百時間を要します。一部通信教育も認められていますが、やはり対人援助職ですから演習が多く時間を占めています。実際の認定介護福祉士の活躍までには、年数がかかると思われませんが、今後の介護福祉の現場・地域社会でのリーダーとしての役割が期待されています。

さて、岡山介護福祉士会の活動を少しご紹介いたします。会員の代表が研修・広報・調査研究・技術指導の委員会に所属し、それぞれ活動しています。さらに、「十一月十一日介護の日」の広報活動として介護福祉士養成校と共に「介護フェア」を毎年開催しています。今年二月には、はじめて「おかやま介護グランプリ」を開催し介護技術を競いました。本年度も予定していますので、ぜひ皆様も参加して頂けたらと思います。そして……

「介護」を肌で感じてください。



◆研修会の予定

◎平成二十八年九月十七日（土）

十三時三〇分～十五時〇〇分

岡山県医師会館 四階 第一会議室

プライマリ・ケア講座

—熊本地震と救急医療

・認知症対策等について—

「熊本地震 何が起こり、何を行ったか！

—command and controlの必要性—

講師

熊本市市民病院神経内科・地域医療連携部

リハビリテーション部 首席診療部長

橋本 洋一郎 先生

「熊本地震における日本栄養士会災害支援
チーム（JDA-DAT）のボランティア
活動報告」

講師

岡山県栄養士会理事 地域活動事業部部长

日本栄養士会災害支援チーム

（JDA-DAT）リーダー 細川 良子 氏



◎平成二十八年十一月五日（土）

認知症研修会

◎平成二十八年十二月三日（土）

岡山県内科医会合同研修会

◎平成二十九年一月十四日（土）

実践シンポジウム

◎平成二十九年二月十八日（土）

岡山県医師会プライマリ・ケア部会

合同研修会

※詳細は追ってご案内いたします

◆入会の案内

★申込書は、HPからダウンロード出来ます。

<http://www.p-care-okayama.com/>

岡山プライマリ・ケア学会 入会申込書

岡山プライマリ・ケア学会
会長 徳嶋 啓祐

日本プライマリ・ケア学会が平成21年に日本プライマリ・ケア連合学会として
発足したの机缘に、日本プライマリ・ケア学会岡山支部は、岡山プライマリ・ケ
ア学会として独立しました。基本的には、今までの20年の歴史を継ぎ、岡山の特
色ともいえる多職種連携のもとに推進いたします。
これらの活動には、岡山医師会から多大のご協力を頂いています。

○具体的な活動

1. 学術大会（平成27年度・第23回）
2. 多職種多団体との連携
3. 岡山県各地で実施する方策と実践活動
4. 在宅療養に有効な連携バスシートの普及【連携シートむすびの和】
5. 医療福祉

詳細は、ホームページをご参照ください。「岡山プライマリ・ケア学会」で検索。




年会費：医師・歯科医師・薬剤師：5,000円
その他：2,000円

【申込日】 平成 年 月 日

氏名：	職種：
連絡先（職場・自宅）	
住所（〒）：	電話番号：
所属（連絡先が職場の場合）：	

申込先：岡山プライマリ・ケア学会 F.A.X.：086-251-6622

◎どなたでも入会出来ます。 ◎入会は随時受け付けます。

編集後記

今年の夏は猛暑が続き、身体も心も参って
ましたが、五輪アスリートの奮闘に感動ととも
に元気をもらいました。

大きなことを成し遂げるには、日々の積み重
ねと周囲の人の協力と支えの重要さをあらため
て考えさせられました。

パラリンピックにも期待し暑い夏を乗り切り
たいですね。

編集委員

佐藤 涼介

菅崎 仁美

丸田 康代

奥田 圭太郎

編集・発行

岡山プライマリ・ケア学会 事務局

〒700-0024

岡山市北区駅元町19-2

（岡山県医師会内）

TEL：086-250-5111

FAX：086-251-6622

Eメール：gakkai@p-care-okayama.com